



幼稚園・保育園における食育活動の有効性に関する 文献レビュー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学 公開日: 2021-10-14 キーワード: 作成者: 瀬浦, 崇博, 川邊, 淳子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007039

幼稚園・保育園における食育活動の有効性に関する文献レビュー

瀬浦 崇博・川邊 淳子*

北海道教育大学旭川校食生活学研究室

*北海道教育大学旭川校家庭科教育研究室

Literature Review on the Effectiveness of Dietary Education in Kindergartens and Nursery Schools

SEURA Takahiro and KAWABE Junko*

Dietary Habits and Science Laboratory, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

*Department of Education, Asahikawa Campus, Hokkaido University of Education

概 要

本研究は幼稚園や保育園で実施された食育活動を系統的に整理すると同時に、その教育効果を検討し、今後の支援に繋げることを目的に文献レビューを実施した。文献の収集は、CiNiiおよびJ-STAGEの文献データベースを用いて行った。検索式は（“食育” OR “食教育”）AND（“幼稚園” OR “保育園” OR “保育所”）とした。その中から学会発表要旨や本研究の目的に沿わない文献を除いた32件を採択した。採択した文献のうち食育活動の有効性を検討した文献は12件であった。保育施設における食育活動には、調理体験や3色食品群を用いた教育等が有効である可能性が示された。しかしながら、多くの文献で対照群の設定や、食育活動前後での比較を行っておらず、効果的な食育活動を明らかにするにはさらなる調査が必要である。本研究をきっかけに、食育活動に関する客観的な評価を行った研究報告が増えることで、より効果的な食育の方法を提言することが可能になると考える。

1. 緒 言

幼児期は身体の発育が盛んであり、この時期の栄養状態はその後の成長に大きく影響することが明確となっている。第3次食育推進基本計画¹⁾では、2020年度までに「朝食を欠食する子供の割合」を0%にすることを目標としていたが、いまだ幼児（1～6歳）の朝食の欠食率は約6%に推移し

ている²⁾。このことから、心身の発達や規則正しい食習慣の形成のためには、学童期のみではなく幼児期においても食育を推進することが重要である。保育園や幼稚園における食育の実施にあたっては、2005年に制定された食育基本法³⁾を踏まえ、「保育所保育指針⁴⁾」や「幼稚園教育要領⁵⁾」で明記されており、保護者や地域社会との連携を図りながら、保育現場でも食育を実践することが

求められている。

このような中、保育現場の食育に関しては、栄養士または管理栄養士など、食を専門とする職員によって実施することが望ましいが、保育園や幼稚園に栄養士の必置義務はなく、私立保育園の場合では34.9%の施設しか栄養士が配置されていない⁶⁾。そのため、食育実践者は保育士や幼稚園教諭あるいは、調理士などが担っており、どのような食育が児童に効果的であるかわからないまま、それぞれの園独自で食育活動を実施している現状であることが窺える。したがって、現場で活躍する食育実践者に効果的な教育方法を提言するためには、まず過去の文献から幼児期における食育の方法やその教育効果を探ることが必要であると考えられる。

これまでに小学校や中学校における食育の実態を調査した文献レビューはいくつか見受けられるが⁷⁾、幼稚園および保育園で実施されている食育を検討した文献レビューについては、著者の知る限りでは、2015年に報告された1報のみである⁸⁾。ここでは、食育実践内容や栄養士の配置状況、さらに問題点や課題などが系統的にまとめられているが、食育の具体的活動内容や食育実践後の教育効果については触れられていない。また検索条件に関する詳しい記載がなく、どのように採択文献を選択したのかが明確でない。そこで本研究では、幼稚園および保育園で実施されているこれまでの食育の実態について系統的に調査し、効果的な食育活動の支援に繋げることを目的に文献レビューを行った。

2. 方法

文献の収集は、国立情報学研究所が提供するCiNiiと国立研究開発法人科学技術振興機構が提供するJ-STAGEの文献データベースを用いて検索を行った。文献の選択基準は、研究の目的に沿い、“食育”、“食教育”の2語に、調査対象の施設となる語として、“幼稚園”、“保育園”、“保育所”の3語を用いた。すなわち、CiNiiおよび

J-STAGEでは、“食育” OR “食教育”) AND (“幼稚園” OR “保育園” OR “保育所”)と検索式を入力して検出した。今回の研究では、比較的新しい食育情報を系統的にまとめるため、検索日の令和2年11月6日までに公開された2010年から2020年の文献を検索対象とした。また、文献は学術雑誌、紀要および報告書などを対象とした。検索の結果、CiNiiでは407件、J-STAGEでは9件であった。それらの中から、一次スクリーニングとして重複した文献(7件)、学会発表要旨(61件)を除外した。次に二次スクリーニングとして、外国での食育活動に関する文献(2件)、幼稚園及び保育園以外の施設における食育活動の文献(11件)、食育の実施状況や実態を調査した文献(30件)、食育活動について検討していない文献(252件)、1つの研究報告が2報に分かれている文献を1件とカウントし、それぞれ除外した。その後、52件の文献を精読し、食育実践者が栄養士あるいは調理士などを目指す学生と記載されていた文献(12件)、食育の実施状況や実態を調査した文献(4件)、幼稚園および保育園以外の施設における食育活動の文献(4件)を除外した32件を採択した(図1)。

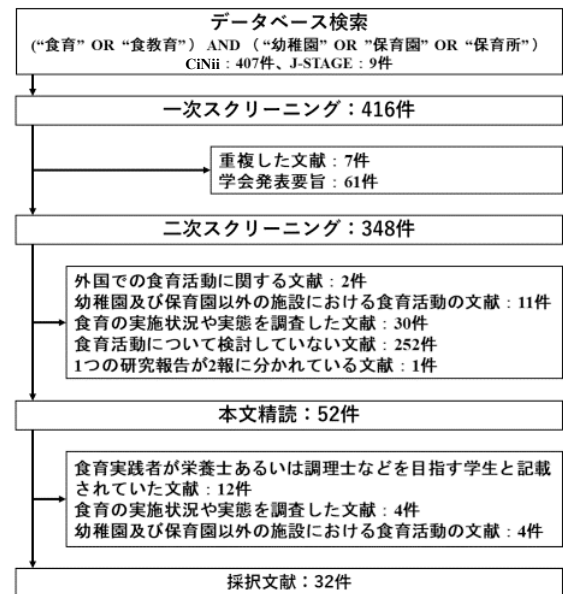


図1 文献採択のフローチャート

3. 結果

3-1. 保育現場における食育活動の内容

採択した文献32件のうち、幼稚園で実施された食育に関する報告は20件、保育園で実施された食育に関する報告は9件であった（表1）。また文献12, 17および35については、幼稚園と保育園の両施設で同じ食育活動を実施していた。食育活動の内容は、調理体験（親子料理教室含む）が13件^{9, 15, 16, 18, 19, 22, 24, 26, 28, 31, 32, 35, 39}、給食を活用した食育が9件^{12, 18, 19, 24, 27, 35-37, 39}、食育教室（手作りの媒体等を使用した食育）が12件^{12, 16, 17, 19, 21, 22, 28, 33-35, 38, 40}、栽培活動が8件^{14, 16, 20, 23-25, 29, 30}、牧場体験が2件^{24, 28}、飼育活動が1件¹³であり、多くの報告で複数の食育を組み合わせて実施していることが明らかとなった。その他の食育活動としては、魚のつかみ

とり体験¹⁰や、魚の解体学習¹⁸などが確認された。また、園児以外にも保護者に向けた食育教室（手作り媒体等を使用した食育）^{11, 16, 22, 27, 33, 39}や、食情報（リーフレット）の配布^{12, 15, 16, 21, 22, 27, 40}を行っている施設も確認された。加えて文献11では、保護者のみを対象とした調理体験を行っていた。

3-2. 食育活動の有効性の検討

採択した文献のうち、食育活動の有効性を客観的に検討した文献は12件であった（表2）。その中で、食育実施前後における教育効果を調査した研究は6件^{16, 27, 33, 34, 39, 40}、食育の参加群と非参加群などの比較による研究が6件^{12, 17, 21, 22, 26, 32}であった。

表1 食育活動の内訳

施設	食育の対象	活動の内容	文献番号
幼稚園 (20件)	園児	調理体験（親子料理教室含む）	9, 16, 22, 24, 26, 28, 31, 32, 39
		給食を活用した食育	24, 27, 37, 39
		食育教室（手作り媒体等を使用した食育）	16, 21, 22, 28, 33, 34
		栽培活動	14, 16, 20, 24, 29, 30
		牧場体験	24, 28
		その他	10
	保護者	調理体験（保護者のみ）	11
		食育教室（手作り媒体等を使用した食育）	11, 16, 22, 27, 33, 39
		食情報（リーフレット）の配布	16, 21, 22, 27
保育園 (9件)	園児	調理体験（親子料理教室含む）	15, 18, 19
		給食を活用した食育	18, 19, 36
		食育教室（手作り媒体等を使用した食育）	19, 38, 40
		栽培活動	23, 25
		飼育活動	13
		その他	18
	保護者	食情報（リーフレット）の配布	15, 40
	幼稚園と保育園 (3件)	園児	調理体験（親子料理教室含む）
給食を活用した食育			12, 35
食育教室（手作り媒体等を使用した食育）			12, 17, 35
保護者		食情報（リーフレット）の配布	12

表2 食育活動の有効性に関する文献一覧

文献番号	著者	発行年	施設	調査対象者	食育効果の比較方法	食育活動の内容	食育の効果
12	小谷ら	2020	幼稚園 保育園	3～5歳児：236名	介入群、比較群、栄養教育実施なしの3群での比較	食育教育：1回(15分) 給食を活用した食育：1回 食情報の配布：2回	地産産物の海藻アコモクを活用した栄養教育と、保護者に対するリーフレット配布などにより、アコモクの認知度と食意欲を高め、保護者と幼児の夕食共食頻度が上昇した。
16	藤岡ら	2018	幼稚園	園児と保護者：43組 (有効回答数は34組)	食育実施前後での比較	栽培活動：8か月間 調理体験：栽培活動期間中に2回 食育教室：2回 (調理体験と同じ日)	園児においては、食べ残し高頻度群および食事への集中低頻度群で、統計学的に有意な改善傾向がみられた。
17	森ら	2018	幼稚園 保育園	小学校2校の3年生：201名 (有効回答数は193名)	食育あり群と食育なし群での比較	食育教室：月1回(園児は最長で3年間参加)	幼児期に食育を受けた児童は受けていない児童に比べて便秘の児童が少ないことが確認され、これは食育の効果である可能性が示された。
21	金田ら	2014	幼稚園	園児と保護者：各々157名	食育参加群と食育不参加群での比較	食育教室：9回(4歳児5回、5歳児4回) 食情報の配布：各回で配布	子どもが「食べ物に興味・関心をもつようになった」と回答した者は、食育参加群で44名、食育不参加群で5名であり、食育参加群で有意に高かった。
22	前田ら	2015	幼稚園	園児と保護者：各々105名	調理意識群と調理無意識群での比較	調理体験：5回 食育教室：5回 食情報の配布：回数不明	食育活動直後には、満足度、食生活改善意識は高いが、特に意識の低い対象者においては、継続することは困難であった。
26	堀田	2014	幼稚園	年中児とその父親：154組	食育参加群と非参加群での比較	調理体験：1回	料理教室終了1か月後のアンケート調査より、園児の家庭における調理体験の「盛り付ける」において、「良くする・ときどきする」が、非参加群は36.5%に対し、参加群は62.5%と有意に高かった。
27	小嶋ら	2014	幼稚園	園児81名とその保護者77名	食育実施前後での比較	食育教室：1回 給食を活用した食育：7回(月1回) 食情報の配布：7回(月1回)	弁当作りへの保護者の負担について「お弁当を作ることが好きか」と尋ねた結果、3歳児と5歳児の保護者では、「かなりそう思う」と回答した人が増加した。
32	堀田	2013	幼稚園	5～6歳児の母親126名	食育参加群と非参加群での比較	調理体験：1回	調理体験教室1か月後の食育効果は、「間食時に手洗いをしている」園児が参加群に増加傾向を示した。
33	砂見ら	2012	幼稚園	保護者54名	食育実施前後での比較	食育教室：園児および保護者それぞれ1回	食育プログラム実施後においては、園児で菓子類からのエネルギー摂取量が有意に減少し、苦手な食べ物に挑戦するようになるなど、食に対する関心が強まった。
34	築山ら	2012	幼稚園	4歳児とその保護者：68名	食育実施前後での比較	食育教室：4回	子供と幼稚園での食事(お弁当)についての会話の頻度は、食教育介入前では、「毎日話す」が23%であったが、介入後では35%に顕著に増加した。
39	櫻井	2010	幼稚園	年長児とその母親：各々11名	食育実施前後での比較	調理体験：2回 食育教室：1回 給食を活用した教育：2回	バイキング昼食会の介入効果をみると、すべての園児に副菜の品数が有意に増加し、副菜を介入前より多種類食べていることが明らかとなり、介入効果が認められた。
40	高尾ら	2010	保育園	園児：186名 (有効回答数135名) 保護者：46名	食育実施前後での比較	食育教室：18回 食情報の配布：18回	参加型教育媒体を用いて幼児に直接働きかけることにより、子どもの食と生活に関する知識が上昇した。

4. 考 察

本研究では、幼稚園および保育園で実施されている食育活動の実態およびその教育効果を検討する為、2010年から2020年に報告された文献を系統的に整理し、文献レビューを行った。論文の抽出基準に基づき判断した結果、32件の文献を採択した。さらに採択された文献のうち、食育活動の教育効果を検討した文献は、12件であった。

調理体験における食育の有効性を検討した文献では、多くの研究で親子での料理教室が実施されていた。特に母親と園児における親子クッキングにおいては、食育参加によって間食時に手洗いをする園児が増えたことが示されている³²⁾。また父親と園児における親子クッキングでは、食育参加群で家庭における調理体験で「盛り付ける」が増加し、父親の調理態度が園児の調理体験に影響する可能性が示されていた²⁶⁾。近年では、女性の就業率増加などにより、共働きの家庭が増え、母親の調理にかける時間が短縮していることが指摘されている⁴¹⁾。家庭での調理時間短縮は、親子一緒に調理をする機会が減り、さらに子どもの食経験や調理技術にも影響を及ぼすことが推察される。幼稚園や保育園での親子料理教室は、児童の調理技術が向上するのみではなく、家庭での食事作りへの参加にも繋がるのが考えられ、保育現場では積極的に活動を進めるべき食育のひとつであると言える。

手作りの媒体や教材等を使用した食育教室を実施していた文献のうち、文献17, 19, 22, 33, 34, 39および40では、3色食品群を題材とした食育が実施されていた。3色食品群は普段私たちが食べている食品を栄養素の働きから、赤黄緑の3のグループに分類したものである。例えば、赤色は体をつくるもとになる肉や魚など、黄色はエネルギーのもとになる米やパン、イモ類など、緑色は体の調子を整えるもとになる野菜や果物などが示される。この3色食品群は食品の違いをわかりやすく表しているため、幼児でも理解が容易で保育の現場では活用しやすい食育の題材となる。文

献40では、食育活動前後での園児の3色食品群の理解度を調査し、食育介入後には「赤のグループの食べ物はどれか」、「黄色のグループの食べ物はどれか」、さらに「体に良い食事の組合せはどれか」の選択問題において有意に得点が上がったことを報告している。しかしながら、文献33では、3色食品群を用いて野菜類や果実類の摂取量増加を目的とした食育の教育効果を検討しているが、食育実施前後で園児の野菜摂取量に変化がなかったことが報告されている。すなわち、3色食品群を用いた食育は、幼児期において食に関する知識は習得できるが、必ずしも食行動の改善には繋がらない可能性が示唆される。今後は知識の定着、さらに食行動へと結びつきが得られる食育活動を検討する必要がある。

文献16では、農作物の栽培活動における食育の有効性について検討していた。また栽培活動と合わせて「食の大切さ・生命の尊さを学ぼう」というテーマのもと、農業体験の振り返りや食への感謝を伝える食教育の実施、加えて農園でとれた野菜を利用した調理体験も実施していた。これらの食育活動により、食育介入後では、食べ残しをする園児においては有意に改善が認められたことを報告している。また、教育効果は検討されていないが、文献14, 20, 23, 24, 25, 29および30でも栽培活動による食育が実施されていた。幼稚園教育要領⁵⁾では、「自然や身近な動植物に親しむことなどを通して豊かな心情が育つようにすること」と記されており、幼児期における栽培活動は道徳性の芽生えを培う上で、必要な教育内容である。幼稚園や保育園において児童同士と一緒に植物の栽培活動に取り組むことで、責任感や感謝の気持ちを育み、さらに野菜の食べ残しを減らすなどの食生活改善を目的とした食育にも有用である可能性が示された。

また、調理体験や食育教室など一般的な食育活動以外にも園独自の食育による報告も散見された。例えば、文献39では、給食を活用した食育の一環としてバイキングを実施し、食育実施後には園児の副菜の選択数が有意に増加し、介入効果が

認められたことを報告している。さらに文献34では、視覚的食教育として紙芝居やリズム体操による食育を行い、その結果、保護者と子供の会話において「幼稚園での食事（お弁当）についての会話」の頻度が食育介入後で顕著に増加したことが報告されている。これら以外にも地場産物のアカモクを活用した食育¹²⁾や、保護者のみを対象とした食育活動¹¹⁾も確認された。幼稚園や保育園での食育は主に幼稚園教諭や保育士が模索しながら食育活動を計画し、実施している現状である。また、実際の保育現場では食育活動以外にも、基本的な生活習慣を身に付けさせることや、イベント行事、さらに地域との交流など様々な体験活動や教育を実施する必要がある、食育に多くの時間を費やすことができるとは限らない。そのような状況で、それぞれの園独自で効果的な食育活動を実施していくには限界がある。本研究をきっかけに、食育活動に関する客観的な評価を行った研究報告が増えることで、食育実施者へ向けた、より効果的な食育の方法を提言することが可能になると考えられる。

本研究では幼稚園および保育園における食育の教育効果について文献レビューを行ったが、多くの文献において対照群を設定したり、食育活動前後での比較を行っていなかった。もちろん食育活動の効果を検討するには、短期的な評価のみではなく、数カ月あるいは数年後にも継続できるアプローチの方法を検討することが重要である。したがって今後の食育活動の評価には、長期的な食意識や食行動の改善を調査した研究も求められる。

引用文献

1) 内閣府：第3次食育推進基本計画,
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10900000-Kenkoukyoku/0000129496.pdf> (2020年11月18日)

2) 厚生労働省：平成30年国民健康・栄養調査報告,
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/h30-houkoku_00001.html
 (2020年11月18日)

3) 農林水産省：食育基本法,
https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/pdf/kihonho_28.pdf (2020年11月18日)

4) 厚生労働省：保育所保育指針,
<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-koyoukintoujidoukateikyoku/0000160000.pdf>
 (2020年11月18日)

5) 文部科学省：幼稚園教育要領,
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youyou/you/you.pdf (2020年11月18日)

6) 公益社団法人全国私立保育園連盟：給食に関する調査報告書, http://www.zenshihoren.or.jp/pdf/torikumi_5.pdf (2020年11月18日)

7) 和井田結佳子, 河村美穂：学校給食が関わる教育活動の研究レビュー—2005年食育基本法成立以降に着目して—, 日本家政学会誌, 71, 574-588 (2020)

8) 辻村明子, 久保薫：保育所・幼稚園における食育実践状況に関する系統的レビュー, 青森中央短期大学研究紀要, 28, 85-92 (2015)

9) 木戸詔子：京都女子学園における食育活動：京都幼稚園・はじめてのクッキング教室, 京都女子大学栄養クリニック活動報告書, 012, 22-25 (2020)

10) 廣瀬三枝子, 小藤聖佳, 渡辺愛華, 他：幼稚園における食育活動：魚のつかみ取り体験からの発展, 香川短期大学紀要, 48, 177-184 (2020)

11) 小野友紀, 小島直子, 酒井幸子：「海苔」を題材とした食育保護者会の有用性の検討：M短期大学附属幼稚園における保護者を対象とした食育の取り組みをもとに(人間理解(教育, 福祉)に関する共同研究：生きる力と他者理解の心を育む教育・福祉), 武蔵野短期大学研究紀要, 34, 63-69 (2020)

12) 小谷清子, 古谷佳世, 猿渡綾子, 他：幼稚園と保育所の幼児と保護者を対象とした地場産物(アカモク)を活用した食育の実践とその評価, 栄養学雑誌, 78, 5-12 (2020)

13) 高橋健司：ニワトリ飼育が乳児の「いただきます」「ごちそうさま」の気付きに及ぼす影響, 創大教育研究, 29, 1-14 (2019)

14) 齊藤佳子, 林美代, 渡辺愛華, 他：幼稚園における植物栽培から食育や造形へつなげる保育実践：赤しそと棉を教材として, 香川短期大学紀要, 47, 189-197 (2019)

15) 伊藤知子, 小野早苗, 倉園安子：1～2歳児を対象とした小規模保育園における食育の取組み, 帝塚山大学現代生活学部子育て支援センター紀要, 4, 29-38 (2019)

16) 藤岡美香, 田中恵子, 山本麻衣：食農教育が園児及び保護者の食生活に及ぼす影響, 中京学院大学短期大学部研究紀要, 48, 25-30 (2017)

17) 森久栄, 四條以智子, 大洞典子, 他：地域活動栄養

- 士の継続した食育活動についての効果に対する検討, 日本栄養士会雑誌, **61**, 613-622 (2018)
- 18) 内山瑞枝, 松尾裕子, 桐山千世子, 他: 保育園における食育の取り組み: 和食の良さを伝える保育実践, 保育と保健, **22**, 73-76 (2016)
- 19) 仲宗根綾乃: 体づくりと心を育む食育活動: 食育活動から見えてきた子ども達の育ち, 保育所保育実践研究・報告集, **10**, 99-103 (2016)
- 20) 新堀左智, 日高文子, 上地由朗: イネ栽培学習が幼児教育にもたらす影響と役割に関する検証: 東京農業大学農学集報, **60**, 18-27 (2015)
- 21) 金田直子, 子安愛, 大畑千弦, 他: 幼稚園と家庭を結ぶ食育プログラムの評価, 生活科学研究誌, **13**, 27-39 (2014)
- 22) 前田典子, 矢埜みどり, 増村美佐子, 他: 幼稚園における食育プログラムの実践と評価, 兵庫大学論集, **20**, 221-230 (2015)
- 23) 藤田理恵: 保育園での食育への取り組みについて: 様々な食育活動の取り組みから見えてきたもの, 保育所保育実践研究・報告集, **8**, 51-59 (2014)
- 24) 古郡曜子, 杉村留美子: 幼児の食育にボランティアを取り入れた栽培活動: 恵庭(えにわ)幼稚園の事例から, 北海道文教大学論集, **15**, 125-131 (2014)
- 25) 小野瀬剛志, 堀由里, 鈴木純子: 保育園における食育カリキュラムと幼児の野菜への関心の関連について, 研究紀要青葉, **6**, 79-85 (2014)
- 26) 堀田千津子: 幼稚園児と父親に対する食育活動: 一調理体験教室における効果一, 日本食育学会誌, **8**, 19-27 (2014)
- 27) 小嶋治鈴, 堀奈美, 関口道彦, 他: 幼稚園のお弁当を通じた食育プログラム: 保護者の食に対する意識の変容に着目して, 広島大学学部・附属学校共同研究機構, **43**, 43-51 (2014)
- 28) 松山由美子: 幼稚園における牧場体験を取り入れた食育プログラムの開発と評価, 四天王寺大学紀要, **59**, 583-597 (2014)
- 29) 大村真理, 後藤由美子, 上地由朗: 幼児教育におけるイネ栽培学習の実践活動とその効果, 日本農業教育学会誌, **44**, 1-13 (2013)
- 30) 手島史子, 森下秀和, 坂谷安加, 他: 幼児の豊かな食育体験に向けての取り組み: 附属幼稚園の食育の実践事例, 山口短期大学研究紀要, **33**, 37-40 (2013)
- 31) 別宮紋: 附属幼稚園における食育実践報告: 4歳児・5歳児を対象に, 環太平洋大学短期大学部紀要, **25**, 133-138 (2013)
- 32) 堀田千津子: 幼稚園児と母親に対する食育活動: 一調理体験教室における効果一, 日本食育学会誌, **7**, 119-128 (2013)
- 33) 砂見綾香, 日田安寿美, 川野因, 他: 幼稚園児および保護者に対する食育プログラムが両者の食生活に及ぼす影響, 日本食育学会誌, **6**, 265-272 (2012)
- 34) 築山依果, 小山洋子: 幼稚園児における視覚的食育の効果, 環太平洋大学研究紀要, **6**, 33-38 (2012)
- 35) 菊地和美, 川原陽子, 中澤はるか, 他: 石狩市内の保育園における食育活動, 家庭科・家政教育研究, **7**, 53-60 (2012)
- 36) 曾川美佐子, 田中愛, 吉村彩: 保育所における食育の実践, 四国大学人間生活科学研究所年報, **5**, 17-26 (2011)
- 37) 室谷敦子: 幼稚園における給食を楽しむための食育実践, 幼年児童教育研究, **22**, 123-138 (2010)
- 38) 白木まさ子, 杉山鮎美, 山瀬寿子: 保育園における食育の効果と保護者の食意識・食行動との関連, 健康プロデュース雑誌, **4**, 1-10 (2010)
- 39) 櫻井菜穂子: 幼稚園児に対する食育プログラムの介入効果について, 人間生活科学研究, **46**, 15-24 (2010)
- 40) 高尾優, 足立奈緒子, 松本麻衣: 保育園児への食育介入および保護者への教育介入の有効性に関する検討, 日本栄養士会雑誌, **53**, 246-251 (2010)
- 41) 阪野朋子, 瀧日滋野: 幼児の母親の就労形態別に見た調理の現状—調理頻度と調理技術, 食意識, 食経験, および事故効力感との関連—, 日本家政学会誌, **68**, 575-587 (2017)

(瀬浦 崇博 旭川校講師)

(川邊 淳子 旭川校教授)

